

神戸昇天教会月報

☎652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
 FAX (078) 361-4539
<http://nssk-kobeshoten.org/> 振替口座 01110-2-10517

2013年 3月

大 齋 節

上を向いて歩こう

～心を神に／主に心を献げます～

主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、教えて見るがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」(創世記15:5)

司祭 ミカエル 小南 晃

昔、大ヒットした歌で「上を向いて歩こう」という歌がありました。

日航機事故で亡くなった坂本九さんが歌っていましたが、今でも多くの方が覚えておられると思います。

「上を向いて歩こう、涙がこぼれないように、思い出す春の日、一人ぼっちな夜」。この「一人ぼっちな夜」と言った歌詞が、具体的にはどのような孤独を意味するかの示唆はありません。しかし、だからこそ、各々の人が自分にとっての辛く、悲しかった時の思い出や体験を、その歌詞に重ね合せて聞き、また歌うことによって大ヒットしたのでしょう。

今から18年前の阪神大震災の後にもよく歌われました。そしてこの3月11日に2年目を迎える、東日本大震災の後にも、よく歌われています。辛く、悲しく、心が沈む時、人はうなだれ、うつむいてしまいます。しかし、その人々に、悲しくて涙が溢れて来るでしょう。だから、涙が溢れるままでも良いから空を見上げてご覧下さい。そして歩き出しなさい。希望を持ちなさいという優しい、慰めの響きがこの歌にはあるように思います。

「天を仰いで、星を数えよ」

冒頭の聖句は、アブラム、後にアブラハムと改名しますが、主なる神が、彼の子孫に土地を継がせる

約束をされたみ言葉の一部です。

アブラムは主の言葉に従って、行き先を知らされぬまま、故郷を捨てて流浪の旅に出ました。しかし彼は或る夜、自分の人生を振り返りながら、結局のところ、自分には安住の地が無かった。そして子孫も無い。自分は常に主の言葉に従って歩んで来た筈だが、その人生には喜ばしい報いがなく、徒労だったのではなかろうかという挫折感に、一人うなだれていたのでしょうか。



主なる神は、天幕の中でうなだれ、目を落としている彼を外に連れ出しました。そして「天を仰いで、星を数えることができるなら、教えて見るがよい」と、夜空を見上げさせました。乾燥した砂漠地帯の夜空です。天高く 満天の星が、そこに輝いていた筈です。

私たちは普段の生活で、ともすれば夜空を見上げるということは忘れがちです。それにまた街の明かりに遮られ余りよく見えません。

しかし、山などに旅行やキャンプに行つてふと星空を見上げた時、宇宙の美しさや広大さ、自分の存在がいかに小さいかなどに一種の感動を覚えるのではないのでしょうか。

この時、アブラムもまた、くよくよとうなだれて思いから、そのように夜空を見上げた時、ふっと心を交えられたのではないのでしょうか。

そしてアブラムは神の語られた「あなたの子孫はこのようになる」という言葉を信じ、主はそれを義と見られた、即ち正しい信仰として受け入れられたのでした。

心を神に／主に心を献げます

目を上げる、目を天に向けるとは、自分の思い違いや悲しみをひとまずおいて、創造主、全能者である神と、神の約束や恵み、そして愛に目を向けることです。また神のみ前に自分の小さいことを思い出して、自分を神に委ねることです。

聖餐式における感謝聖別の祈りで、私たちは司式者と会衆の間で「心を神に」、「主に心を献げます」と呼びかけ合います。以前は「汝ら心を上げよ」、「我ら心を主に上げん」でした。そこには神を仰ぎ見るという意味合いが込められています。

私たちが、多くの思い煩いや不安、焦燥感を抱いた時には、そのとき恐らく心の目も下に向き、神様や天国に思いを馳せることを忘れていた時です。

大齋節は信仰の原点に帰る時であり、神を仰ぎ見て歩む生き方へと立ち帰る時です。即ち、本当の意味で上を向いて歩こうということです。

共に心を主に献げて、思い煩いや不安から解放され、恵みの約束に感謝しながら歩んで参りましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)